**第10章 電気･ガス･水道**

**電気**

　昭和61年における電灯需要の契約口数をみると、375万4225口にのぼり、前年の368万1900口に比べ2.0％（7万2325口）の増加を示した。その内訳をみると、定額制が46万5649口、従量制が327万8374口と、前年に比べそれぞれ1.8％、1.9％の増加となっている。また、契約口数の増加に伴いその使用電力量も110億8686万kWhと前年より1.1％の増加となったが、１口当たりの年間使用量は前年に比べ0.9％減の2953kWhとなっている。
　一方、電力需要についてみると、契約口数は51万5492口で、前年に比べ0.7％の増加となったが、その使用電力量は317億5272万kWhで、前年に比べ0.5％の減少となっている。
　このうち、500kW未満の需要家数は51万3670件で、総需要家数の99.6％と大部分を占めている。契約電力では884万4801kW、使用電力量では133億6730万kWhとなり、それぞれ64.3％、42.1％のウェイトを占めている。前年に比べ、契約電力は0.8％の増加、使用電力量は1.3％の増加となっている。
　なお、500kW以上の大口電力契約による需要家数は1822件で、前年より0.4％の増加となり、契約電力も490万2706kWと0.5%の増加となったが、使用電力量は183億8543万kWhと1.7％の減少となっている。

**ガス**

　昭和61年中の大阪ガス株式会社における都市ガスの生産量は、28億4619万m3で前年の29億1788万m3に比べ、2.5％の減少を示した。この内訳は石炭ガスの生産量が３億3437万m3で、前年に比べ3.4％の減少、混入ガスの生産量が25億1182万m3で、前年に比べ2.3％の減少となっている。また、石炭ガスの生産量は３億3437万m3で、55年以来減少を続けており、混入ガスは前年まで増加していたが、61年では減少となっている。
　一方、消費量は19億9174万m3で、前年に比べ2.1%の増加となっている．これは工業用が6億320万m3で、7.1％減少したものの、商業用が３億1222万m3で5.6％増、公用が6417万m3で6.0%増、医療用が5047万m3で5.4%増、家庭用が９億6168万m3で8.5％増とそれぞれ増加したためである。
　また、地域別に消費量をみると、大阪市地域が全体の39.6％（前年より1.7ポイント上昇）を占め、次いで泉北地域が18.2％（同3. 8ポイント低下）となっている。

**水道**

　昭和61年における上水道の給水総量をみると、年間給水量は13億498万m3で前年に比べ1.4％の増加となっている。これを地域別にみると大阪市地域が５億3295万m3で全体の40.8％を占めている。
　栓数は263万2837件で、前年に比べ0.5％の増加となっている。
　また、１人１日平均給水量は413 ｌ で前年に比べ4 ｌ増加した。これを市町村別にみると、１位が大阪市の553 ｌで、以下岬町の447 ｌ、摂津市の415 ｌの順となっている。
　工業用水の使用状況をみると、１日当たりの総使用量は、前年比0.2％増の897万105m3となっている。
　このうち淡水の使用量は788万5488m3で、全体の87.9％（前年に比べ1.7ポイント上昇）を占めており、前年に比べ1.8％の増加となっている。これを水源別（淡水）にみると回収水が大半の85.8％を占めており、なかでも化学、鉄鋼が回収水全体のそれぞれ49.3％、23.8％とこの２業種で７割以上を占めている。
　次に府下における昭和61年度末現在の下水道の普及率をみると、排水施設が60.9％で前年度より1.0ポイントの上昇となっている。このうち、大阪市地域は排水施設、処理施設ともに99.6％とほぼ全域に普及している。
　また、都市下水路延長では、都市計画決定が９万5367m、供用開始が6万2648mとなっている。